

加工・業務用野菜における 生産者の取組

令和7年5月

JA全農 園芸部 加工業務直販課
課長 坂本 和士

- 1 加工・業務用野菜生産の現状
- 2 加工・業務用野菜の産地の課題
- 3 課題解決に向けた取組
- 4 その他の取組

1 加工・業務用野菜生産の現状

- ・生産に取り組むきっかけ
→産地数・取扱い実績の減少
生産振興に取り組みやすく、提案も容易
- ・生産に取り組むメリット
→大規模栽培や資金調達が可能
- ・どのような産地が生産しているか
→園地・労働力の確保できる産地が主

1 加工・業務用野菜生産の現状

- ・ 年間で観た場合の供給状況や端境期の状況
→ 異常気象による生産の不安定化
保管施設を活用した原料確保
- ・ 加工・業務用野菜としての栽培状況
→ 生食品種が主体のケース／多収性品種が主体のケース
- ・ 出荷方法
→ 川上・川下の需要に応えるコンテナ出荷が主
コールドチェーンは進んでいない場合が多い

2 加工・業務用野菜の産地の課題

- ・ 供給量の不足
 - 異常気象・高温による大幅な供給量不足
 - 準高冷地の産地における高齢化、圃場規模の問題
- ・ 安定供給の確保
 - 夏場の高温等による不安定な供給
 - 保管施設の確保
- ・ 収益の確保
 - 保管費の負担問題

3 課題解決に向けた取組

- ・ 単収向上、安定生産、コスト低減に向けた対策
→ 一番は労働力の確保
適期防除等には手間をかける必要
コスト低減は過度に進めると単収に影響
- ・ 新品種の導入や栽培方法の見直し
→ マーケットインに準じた品種から、
産地の気候に適した（安定生産可能な）品種・栽培へ

3 課題解決に向けた取組

- ・産地の規模拡大、産地リレーなどの他産地との連携
→ 1 産地の規模拡大では天候等のリスクは変わらない
各産地の連携強化によるリレー出荷体制が不可欠
- ・リードタイムの解消や流通コスト低減
→ 全国本部として、中継物流拠点の取組を強化
青果物輸送の往復便、広域商品の混載
国外産地との競争に備えた、広域でのデータ連携

4 その他の取組

- ①国産青果物の生産量確保に向けた生産振興
（冷凍加工品目と従来の加工業務品目のタマネギ・
キャベツ・人参等）
- ②川上から川下までの青果物インフラの整備
- ③直接販売の拡大（一元販売整備 リレー出荷・年間供給）
- ④青果物業界全体の業務効率の向上（システム整備）
- ⑤適正価格形成・消費拡大等に向けた取り組み